

平成28年度第9回技術委員会（準備書第2回審議）及び追加提出の意見に対する事業者の見解

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
1	事業計画	梅崎委員	【第2回審議】 ・資料1-1の鉄筋コンクリートの基礎部分は、4メートルのところが斜孔になり、その後には拡底した基礎になっているが、一連で施工するのか。	・そのとおりです。
2	事業計画	梅崎委員	【第2回審議】 ・ルジオン試験の目的と、活用方法を示してもらいたい。 ・途中で湧水、排水が多くなったかなどの状況を含め、次回委員会で示してもらいたい。	・正確にお答えできないので後日回答とさせていただきます。 【事後回答】 ・ルジオン試験は、実施しておりませんでした。地質調査会社の柱状図の標準書式を使用したため、柱状図の項目にルジオンの表記が残ったままになっております。 ・ルジオン値(Lu)は、ダムなどの高い水圧の作用下にある基礎地盤の水の通しやすさ、透水性を表わす指標であることから、鉄塔基礎では調査しておりません。
3	事業計画	山室委員	【第2回審議】 ・地すべり地形か否かを判断した根拠を示してもらいたい。	・149番鉄塔につきましては、比較的丘陵な地形になっており、浅い表層すべりであると地形判読、地質の専門家との現地踏査で確認をしました。その他、斜面安定の検討などもしており、鉄塔への影響のある地滑りではないと考えております。
4	事業計画	山室委員	【第2回審議】 ・149番鉄塔の粘性土の部分の地層が滑ったとのことだが、他の地点も粘性土が滑るといふ可能性はないのか。 ・特に147番鉄塔などは上の方のN値がすごく低く、9mから急に増えているが、地形的に安定しているから大丈夫と判断したのか。	・地すべり地形と通常の地形は異なると思います。地すべり地形であれば粘性土や、比較的N値の大きい層厚まで滑ることはあると思います。 ・地盤から物性値を想定した斜面安定などの検討も合わせて行い、そういった評価の中で例えば147番鉄塔は地すべり地形ではなく、斜面崩壊の影響はないと判断しています。
5	事業計画	富樫委員	【第2回審議】 ・境峠断層について、詳細な調査をされていることが確認できて安心した。資料1-3を見ると、主断層の他にもたくさんの断層があることが分かるが、鉄塔地点については、これだけの調査をやったなるべく悪い場所を避けるようにポイントを選んでルートにしていることはよく分かった。 ・境峠断層が動いた際に2、3メートル程度の鉄塔間変位が起こるとのことだが、許容範囲と考えているのか。 ・今回のデータを見ると、多くの地点で主断層から派生する断層を通過していることが分かるので、近傍で地震活動等が起こった場合には、こまめに点検をしていただくなど配慮していただきたい。	・鉄塔の間が広がることによって張力が上がるので、その状態で設備を永久に使えることないですが、当面倒れることはない程度の強度はあると考えております。 【事後回答】 ・送電線近傍で大規模な地震が発生した場合は、臨時点検により設備の損傷の有無を把握し必要な措置をします。
6	事業計画	富樫委員	【第2回審議】 ・基本的には境峠断層に並行する区間が多いため、地盤状態は他の地山より悪いというリスクのあるルートである。工事に当たっても、細かな断層、亀裂などが多い場所であることを踏まえて、地すべりを誘発させたりしないよう、排水処理等にも十分気をつけていただきたい。	・御意見を踏まえて、工事を行ってまいりたいと思います。
7	事業計画	梅崎委員	【第2回審議】 ・194番鉄塔の位置変更の理由はなにか。	・地域の事情によるものです。
8	騒音	塩田委員	【第2回審議】 ・資料1-4の※1の騒音型建設機械の出典を明記すべきではないか。	・出典は国交省が定める低騒音型建設機械の基準なので、明記します。 【事後回答】 ・資料1-1のとおり明記します。
9	騒音振動	塩田委員	【第2回審議】 ・この地域は静穏な地域であるため、ソフト的な対策として、工事の進捗、使用する建設機械などを住民に分かりやすく情報発信すれば、円滑に工事が進むと思うので配慮をお願いしたい。	・工事の実施や、進捗については地域の方々に、どういった形で工事する、どういった音が出るということを御説明しながら進めてまいりたいと思います。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
10	低周波音	塩田委員	【第2回審議】 ・低周波音の発生は軽微と考えているとのことだが、事業者としてどの程度のものを軽微と考えているのか。 ・数字で表現しているものと、文章で感覚的に表現しているものがあるので、出来るだけ数字で説明すべきではないか。	・発電機については、使用予定の発電機のメーカーに問い合わせたところ、低周波音の発生をそもそも想定していないため、対策も特段していないと回答がありました。しかし、低周波音の発生を全く否定はできないので、そういった意味で軽微と考えております。 【事後回答】 ・数字で表現できるものについては、出来るだけ示すようにします。
11	地形・地質	富樫委員	【第2回審議後追加意見】 ・3-1-37～39ページの資料は長野県デジタル地質図2015完成前の2010年に原因としてまとめた資料であるため、新しい資料に差し替えること。	【事後回答】 ・資料1-2のとおり資料を差し替えます。
12	地形・地質	富樫委員	【第2回審議後追加意見】 ・3-1-40ページの表3.1.4-2の文献に中島・大塚（2008）を追加すること。	【事後回答】 ・資料1-3のとおり文献を追加します。
13	地形・地質	富樫委員	【第2回審議後追加意見】 ・3-1-41ページ下から2行目の「比較的高い」の表現を、「高い」に修正すること。	【事後回答】 ・資料1-3のとおり資料を修正いたします。
14	地形・地質	富樫委員	【第2回審議後追加意見】 ・4-2の影響評価の項目で、「工事による影響の要因」において「地形地質の環境要素」の欄に○をつけ、それに応じて本文の記述を修正すること。	【事後回答】 ・資料1-4のとおり本文の記述を修正いたします。
15	地形・地質	富樫委員	【第2回審議後追加意見】 ・評価書では、地形地質の予測評価に関する記載を加えるとともに、準備書審議において示された「境峠断層横断箇所の評価」の資料の概要を反映させること。	【事後回答】 ・資料1-5のとおり、地形地質の予測評価に関する記載を加えるとともに、「境峠断層横断箇所の評価」の資料の概要を反映いたします。
16	水質	小澤委員	【第2回審議】 ・表3.2.7-12などにまだ誤りがあるので、確認して修正していただき、信頼度の高い図書を作っていただきたい。	・確認をしたつもりでしたが、足りなかったということで改めて確認をさせていただきたいと思います。 【事後回答】 ・改めて確認した結果、ご指摘の箇所以外にも誤りがあったので、資料1-6のとおり修正いたします。
17	植物 動物 生態系	大窪委員	【第2回審議】 ・現存植生図、群落単位以外の記載も含めて、準備書の中のアズマザサをクマイザサに全て訂正してもらいたい。 (中村寛志委員長職務代理者) ・植物も同じだが、動物の種名は大変重要なので、間違いがないようお願いしたい。	・修正させていただきます。 【事後回答】 ・資料1-7、資料1-8のとおり動物、植物を含め修正いたします。
18	動物	中村寛志委員	【第2回審議】 ・この地域の特徴を踏まえた無脊椎動物の種の記載など、次回委員会に提出している資料については、事前に確認できるように次回委員会直前ではなく、早めに提出いただきたい。	・そのようにさせていただきます。 【事後回答】 ・資料1-8のとおり提出いたします。
19	動物	中村雅彦委員	【第2回審議】 ・場所によって1月～8月に工事中断するとのことだが、雪の影響を考えると更に工事ができる期間は限られると思うが、対応は可能なのか。	・雪による工事の中断という観点では、12月中旬～4月中旬もしかするとゴールデンウィーク明けまで工事できない場所が多いのは事実です。 ・クマタカの営巣が近い場所以外の箇所については、ゴールデンウィーク明けから12月ぐらいまでは工事ができますが、クマタカの営巣が近い場所では、12月中旬から8月まで工事ができない、若しくはしないという形で考えております。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
20	動物	中村雅彦委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26、27年のデータはもちろん大事だが、猛禽類の生息状況は毎年変化するため、今後の動向は必ず調査してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> おっしゃるとおり、年によって変わりますので、引き続き事後調査という形で調査をしてまいります。 100%追従できるか難しいところもあるかもしれませんが、できる限りの対応はさせていただきますと考えております。
21	動物	中村雅彦委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> クマタカの生息が明らかになると、写真撮影などを目的とした人が集まってくる。 クマタカは人が寄ってきて写真を撮るだけでも繁殖に失敗してしまうので、出来るだけ生息地が明らかにならないよう配慮してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状として、クマタカを観察する人が多いという状況は確認していません。本日の議論が広まるとそういった可能性はありますが、場所は公開されている訳ではないので心配はないと考えております。
22	動物	中村寛志委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘリコプターの使用期間は、全部の区間に対して1日なのか、一定の区間に対して1日なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 電線を張る作業の最初の1日目に行います。送電線を2～3kmの区間に区切って、それぞれに区間に対して1回行うので、クマタカの営巣区間に対しても1日だけ飛ぶこととなります。
23	動物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1-10の2ページ真ん中の朱書き修正部分で、シワクシケアリの記載がハラクシケアリとなっているので訂正してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川水辺の国政調査の目録に準拠して、平成27年度版ではシワクシケアリの仲間を含んでハラクシケアリとされていたので、ハラクシケアリと記載しております。
24	動物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最近の研究でシワクシケアリの中で、ゴマシジミの幼虫の世話をするものとしないうものがあることが分かってきている。 形態では区別できないが、分子レベルでは判別可能なので、その研究をしている大阪府立大の上田昇平先生にアドバイスをいただくようにしてもらいたい。 世話をしないシワクシケアリを生息地に移しても意味がないので、よろしく願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち帰ってどこまでやるかを検討させていただきたいと思います。 松本市の奈川地区地域づくりセンター長のお話では、現在ゴマシジミが発生していない場所となっており、発生していない理由としてはシワクシケアリがいないのではないかとということでした。事業の保全対策としてどこまでやるかというのはこれからの検討になるかと思えます。 <p>【事後回答】</p> <p>大阪府立大学 上田先生にゴマシジミ保全対策のアドバイスを頂きました。(12/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴマシジミの寄主であるハラクシケアリの同定は、奈川地区においては巢のある環境で決めてもよい。(草地環境であればハラクシケアリ、樹林環境であればモリクシケアリ) ワレモコウの移植はハラクシケアリの確認に努め、ハラクシケアリの生息地近くが良い。 但し、ハラクシケアリの生息地は少ないため、新たな生息地が確認出来ない場合はゴマシジミが現存している場所にワレモコウを移植することが考えられる。 <p>以上のアドバイスを踏まえ保全対策を実施したいと思います。</p>
25	動物	中村寛志委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護区を作ったためにシワクシケアリの種類が変わってしまったイギリスの事例や、県のゴマシジミの回復事業計画なども参考に保全対策を行っていただきたい。 資料1の24～26番までの部分は、シワクシケアリとゴマシジミとワレモコウの三者の関係がしっかりと分かって初めて対策がとれるということがその趣旨である。 資料1-10を見ると成虫は密度が低い、ワレモコウはあるということが分かる。ワレモコウの保全、移植も検討されており、特に事後調査が重要になってくるのでよろしく願いする。 	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 24番の事後回答参照
26	動物	陸委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿の餌場とならないよう防草シートを張るなどの対策を検討いただきたい。 根本対策はなかなか難しいと思うが、何か少しでもできることがあれば努力をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 他のところで防草シートを使うケースはありますが、ある程度年数が経つと草が生えてしまうなど限界があると考えています。県全体として鹿の害が問題となっていることは認識していますが、現状で鉄塔の所に鹿対策を行うのは難しいという感触です。 何か良いアイデアがあれば、対応していきたいと思います。

No.	区分	委員名	意見要旨	事業者の説明、見解等要旨
27	動物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鹿の餌場としないためには、できるだけ草地環境の中にイネ科の牧草や外来植物などが増えないよう工事をしていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 防草シート、柵などは、少し難しいと考えていますが、他に何か工夫があれば考えてまいりたいと思います。
28	植物	大窪委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑化復元については、現存植生の復元をできるだけ目指すと書いているので大丈夫だと思うが、できるだけ元の表土を活かした形で切土、盛土の緑化をすれば、鹿の餌を増やさないという対策にもなると思うので、配慮いただきたい。 出来るだけ表土の付近にある埋土種子を活かした形で緑化の復元をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現存植生を活かすということで、表土を持ち出したり、新たに入れたりすることは全く考えていません。周辺の植生と似たものを生やすことを基本に考えています。 そのようにいたします。